

協 議 録

月日：令和6年7月12日（金）

場所：芹田公民館 学習室3

時間：午後7時00分から

出席者：住自協会長 倉石榮二

住自協地域交流部会長 小林修二

地公連会長 小林正彦（上千田公民館長）

地公連副会長 神津伸吾（川合新田公民館長）

〃 〃 高松あけみ（北市民館長）

〃 会計 倉石富雄（七瀬町公民館長）

芹田公民館長 岩下透（地公連事務局）

【議題】 芹田地区スポーツ大会の見直しについて

議題の趣旨説明（岩下芹田公民館長）

- 議題の「芹田地区スポーツ大会の見直しについて」は、令和5年度に芹田公民館運営委員会にて提案された素案をベースに、住自協役員会へ諮ろうとしましたが、まずは地公連としての方針を示すよう逆に提案され、5年度末の館長会議で各館長から意見をいただいたまま現在に至っている。

今年度、男女バレーボールを開催し、けが人が7人も発生している現状から、6年度中に地公連としての方針を決定すべく、まずは執行部の見解をまとめることを本日の会議の目的とします。

意見

- バレーボール大会の7名のけが人。5年度全体で6名の状況を見ると由々しき事態である。昔の東京オリンピックを契機にバレーボールが市民に馴染み、プロ野球から草野球が発展されたような時代背景から現在のバレーボール、野球、卓球の種目が選択されて、そのまま旧態依然として継続されていることに問題がある。
役職を担っている関係で、長野市スポーツ推進委員協議会の会長である宮澤俊弘さんとお話する機会があり、これからの取り組むスポーツのあり方について、今後、newスポーツを取り入れることは何ら問題ないし、むしろ推奨して行く方向とのことだった。笑話で終わっているうちはいいが、後遺症となるけが人が出ると地区として問題となる。早期の見直しが必要だ。
- 年度末の各館長の意見でも、約6割はnewスポーツへの見直しにやむなしとの意見で

あった。強引な進め方はできないが、粛々と進めて良いと思います。

- 芹田地区と似通った川中島地区の状況をお話します。スポーツ大会はバレーボールと野球をやっている、同じ悩みをもっており、選手集めが大変で参加する人が特定されている。そして、毎回けが人が多発するので、5年前から種目のソフト化を協議したそうで、今年からやっと野球はやめて new スポーツのボッチャへ、バレーボールがソフトバレーボール（ボールが極端にソフトなもの）に変更になったようです。
コロナ禍を含めて時間を要したが、旧種目を進めたい方の意見など様々な意見があるので、誰かがイニシアティブをもって事を進める必要があると川中島地区の方から進言をいただきました。（岩下芹田公民館長）
- 今までどおり、バレーボール、野球、卓球を継続したい人たちの意見をどうように取り入れていくことが重要ではないか。
- そんなに簡単に種目変更ができるものだろうか？実際に運営はできるのか？new スポーツにしたらけがは無くなるのか？
- 障がい者スポーツ協会のスタッフに聞いたところ、ボッチャ等でけがをした人は経験上いないとのことです。（岩下芹田公民館長）
- 芹田地区のスポーツ推進委員で new スポーツの運営はできるのか？バレーボール、野球、卓球に携わった方々ではないのか？
- 最終的には見直しの方法について、スポーツ推進委員を交えて協議していかななくてはならないし、見直し後の運営に携わってもらうことは必要です。
私のイメージしている見直しは、芹田地区スポーツ大会を芹田地区スポーツフェスティバルとして、地域対抗はなし、年齢制限なし、男女混合でもよしとして new スポーツを開催します。ルールはローカルルールで行うのもありですし、審判は特別な訓練を受けた人でも権威のある方でも無く、体育部長さんがやっても良いのです。そして、種目はボッチャやスマートボーリングなど4種を開催し、芹田地区4ブロックで受け持ちもちます。1ブロック内の各体育部長さんが種目を担当して運営するスタイルです。家族、友達、知人でグループをつくって参加し、4種目を堪能して、楽しんで帰っていただくフェスティバルです。できれば、半日単位で。（岩下芹田公民館長）
- 今年の芹田小の運動会では、もう紅組白組の対戦は無く、徒競走も順位をつけない。リレーも足の速い者だけでなく、遅い者も参加できるように工夫したクラスリレーを行っていた。
国体（国民体育大会）も大会の名称をスポーツフェスティバルに変更、そして都道府県対抗をやめる方向で検討していると報道があった。時代はその方向で流れている。
- バレーボール、野球は経験者でないと難しいところもありますが、卓球は初心者でもできそうだし残しても良いと思う。
- 見直しの条件として、移行の方法も議論の対象になるでしょう。既存の大会の継続を望んでおられる方もいますし、そのタイミングを見定めなければ混乱を招くと思いま

す。

私と思うのは、しばらくは併用もひとつの案だと思います。例えば、バレーボール大会のとき、メイン体育館でバレーボールやってサブ体育館でボッチャをやるとか、どうでしょうか？（岩下芹田公民館長）

- 芹田地区スポーツ大会のスローガンとして、“助け合うチームワークと、励まし合う優しさ、喜び合う笑顔と。スポーツを楽しみ親睦を深めましょう。”とあります。ここに“安全に!!”と加えるべきです。けが人が出ないように“より安全に”をお願いします。
- バレーボール大会終了後に当館でも懇親会を行いました。多くの選手に参加してもらっていますが、確かに選手の年齢層は上がっていて、けがのリスクは高まっている現状は否めません。席上で選手から「来年は出場できないかもしれない。出ててもけがすると思うと怖くたまらない。」言っていました。

無理に出場をお願いして、けがをされると役員として本当に申し訳ないし、あやまつてすむ話でもないなので、けがのリスクの少ない new スポーツへの見直しは致し方無いと考えます。

まとめ

- ◆ 本会議では芹田地区スポーツ大会の種目を new スポーツへ見直しすることを方針とする。そして、9月末を目途に地公連館長会議を開催し、本意見を諮問する。

※) お諮りした後、地公連としての方針が決定できた場合は、その方針を芹田地区住民自治協議会及び芹田スポーツ推進委員へ相談して、意見を集約する。